

組合長あいさつ

代表理事組合長

市川 平治



組合情報誌「森だより」十五号の発行にあたりご挨拶を申し上げます。

さて先般、第十五回通常総代会に於いて全議案が承認され、平成二十八年度が本格的にスタート致しました。

お陰様で、昨年度事業も概ね順調に推移致しましたが、新年度も、新たな高性能林業機械の導入により、更なる生産性の向上を目指して参る所存でございます。

また最近の情報として、林内に放置されていた低質材や端材を有効活用する「バイオマス発電」等の事業化が進み、当組合においても可能な限り関与すべく、具体的な検討に取り組んでおります。

まさに、木材は自然の営みによつて生産される、貴重な無限の資源であり、その有効活用は重要な課題と言えましょう。

以前、「割り箸亡国論」という本が出版され、話題を呼んだことをご記憶の方も多いでしょう。使い捨ての「割り箸」は、自然破壊に繋がるといふような趣旨でした。

実際に、今でも多くの飲食店でプラスチック製の箸が使われています。

しかし、冷静に考えて石油を主原料とするプラスチックと、自然界の水と二酸化炭素と太陽によつて、無限に生産される木材と、どちらが環境に優しいと言えるでしょうか？

一部の身勝手な自然保護論者の扇動に惑わされて、本質を見失つてはいけないと思います。

私たち林業関係者にとつて、経済的には全く先行きの見えな、苦しい現状ではあつても、森林資源を育成するという、誇りある仕事に従事する気概だけは忘れたくないと考えます。

また、改めて申し上げるまでもなく、私たちが生産している

木材は、数十年～百年以上の時間の流れの集積したものです。

私たちの祖先や大先達が、遠い将来に思いを馳せ『いつの日か、この苗が大木になつて子や孫の役に立つ』ことを信じて流した汗の結晶です。

そのような意味からも、森林資源を無駄にせず、少しでも活用する道を拓くことは私たちの使命だと言えるのではないでしょう。

ドイツの神学者マルティン・ルターの『たとえ明日、世界が滅亡しようとも、今日、私はリンドの木を植える』という有名な言葉があります。

この言葉は、宗教的にはいろいろな解釈もあるようですが、私には、私たちの祖先が植林した崇高な精神に通じるものである、と思えるのです。

自分の生命には限界があつても、遠い将来のために植林してくれた大先達に感謝しつつ、私たちも、遠い未来のために新たな森林を育成して行くため、誇りと希望を持って汗を流したいと思ひます。

今年度も、この様な考えの

とに組合運営に取り組み、森林・林業に課せられた社会的使命を果たすと共に、組合員の皆様のご期待に応えて参りたいと思ひます。

どうか宜しくご指導ご協力のほど、お願い申し上げます。

第十五回

通常総代会開催

榛名文化会館エコー

平成二十八年六月二十四日

総代会の概要

- ・ 森林組合綱領唱和
- ・ 開会の辞 清水重信副組合長
- ・ 組合長挨拶
- ・ 来賓挨拶、紹介
- ・ 議長選出 富沢登総代
- ・ 議事録作成に携わる理事及び書記指名
- ・ 第一号議案 審議、採決
- ・ 第二号議案から第九号議案 審議、採決
- ・ 第十号議案 審議、採決
- ・ 付帯決議 審議、採決
- ・ 閉会の辞 追川始理事